

学校点描

3.11東日本大震災で、両親・家族を亡くし孤児や遺児となった子どもは1698人います。あの時、7歳だった生徒たちが、第72回卒業生です。

《S 中学校》

NO.15 H31. 3. 12

担当：教頭

3月9日（土）は、1年生は実力テスト、2年生は立志のことば発表会を行っています。どの生徒も、3年生の今頃は、15の春に向けて自分の人生や生き方、そして夢について真剣に悩む時を迎えます。

10日（日）は公立高校入試でした。今年は天気恵まれましたが、気温が上がらないやや肌寒い日での入試となりました。3年生の学年の先生たちも全員7時前から学校で待機したり、市内の高校の玄関前に寒い中立て出迎えをしています。私立高校に進学を決めた3年生の生徒以外の57名が15の春を目指して受検に向かいました。そして今日12日（水）は、『いのちの日』として、全クラス道徳などでいのちについて考える日にしました。

さて、思いのままを徒然に書かせていただいた、この“学校点描”もこの号で最後となりました。今の学校の教員はびっくりするほどの激務とプレッシャーに加えて、多くの批判の目にさらされています。それでも、「〇〇先生の言葉でうちの子勇気づけられたみたいです」「学校だけでなく家でも子どもをしっかり見ていきます」「たよりのあの話について家族で話し合いました」と言ってくださった保護者の方との出会いは、私たち教員の支えになりました。

来年度このたよりは発行しないかもしれませんが、生徒たちの息遣いや多くの方々に何かを残せたとしたら幸いです。ありがとうございました。

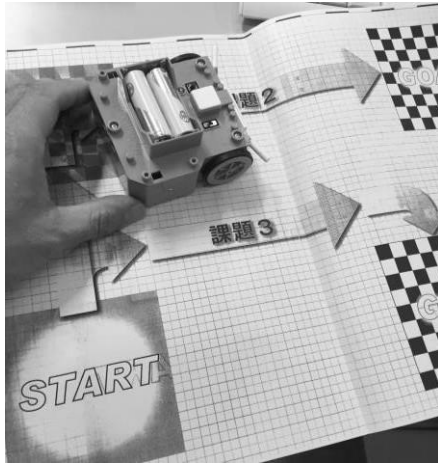
東京でもなく、地方でもなく、

先週、東京で行われたある研修に出かけた時の話です。

研修の終了日、研修時間が延びたため帰りの新幹線に間に合うよう、急いで電車に乗って東京駅に向かいました。この日の東京は気温が上がらず寒い日でそのうえ土砂降りの雨です。さらに金曜日の夕方もあり、大混雑する駅に立つと田舎暮らしのわたしなんか、もう人を見るだけで疲れてしまいます。プラットフォームでは冷たい雨の中電車を待ちます。みんな黙々と傘をさして本を読んだり、スマホを触ったりしています。女子中学生らしい3人の生徒たちも一緒です。同じ学校の友人らしいのですが、会話ひとつなくスマホ画面に夢中なようです。そんな中、電車がやってきて、みんな急いで乗り込みました。都会の日常の風景がここにありました。

3月1日は、わたしの3年生への最後の授業です。3Aがそのクラスとなりました。技術という教科を担当しているわたしが今教えているのはコンピュータプログラミングです。今後小学校でも行うことになっていますので、中学校での内容はさらに深くなってくるものと思われます。

最後の時間は、コンピュータに命令を与えて、ロボットを課題どおりに動くように試行錯誤する授業です。男子のT・Kさんと女子のK・Aさんのペアは、スタートからゴールに行って正確に再びスタート地点に戻るプログラムをいち早く作りました。他のペアもさまざまな方法でスタートからゴールへのプログラムを開発します。ゴールする結果は同じでも、曲がり方や、角度の



計算、秒数、また自分の使用するロボットの癖に合わせてプログラムするため、正解は 1 つではないわけです。

実は、情報教育推進フォーラムに参加するための東京出張でした。文科省の担当課長が目の前で、今後の Society5.0 の社会について熱く語ります。Society5.0 とは、これまでの人類の歴史を大きく変えた、狩猟社会（1.0 段階）、農耕社会（2.0 段階）、工業社会（3.0 段階）、情報社会（4.0 段階）に続く、新たな経済社会をいいます。すなわち、インターネットと様々な機器がつながり AI が主流となる社会革新の時代のことを言っているのです。「AI を活用した社会といくなんだか冷たそうな社会をイメージしそうですが、逆なんです。多様な人との触れ合いや人生を豊かにするために、政府は AI 社会を実現させるつもりです。」と話しました。

電車の中でも 3 人の女子生徒はスマホに夢中です。そこに、中年のサラリーマン、ポケットから手袋を取り出した瞬間、切符を落としました。でも本人は気が付きません。すると、今までスマホに集中していた 3 人の中の 1 人の女子生徒が「おじさん、落としましたよ」と、床から拾って男性に渡しました。男性も頭をかきながらお礼を言っています。なんかホットします。終点の新宿駅につくと、車内全員がすごい勢いで下車します。わたしも人波にもまれながらやっとの思いで降りました。急ぎながら JR の改札に向かって構内を歩いていると、あの 3 人が後ろから走ってきたのです。「あの一、傘忘れてマース」と言って。「ありがとう」としっかりした挨拶もできずに 3 人と別れます。3 人の中学生はおしゃべりしながら逆方向に歩いていきました。予期しないことにも、勇気をだして行動してくれる都会の中学生との出会いです。

3 A 最後の授業。残り 5 分になったので作業を終えて終了です。

「今日でみんなとの授業は最後だけど、最後にひとつ。教科書に書いてあることがすべてではないから、書いてないことでもっともっと大切なことがあるよ。そして勉強してきたプログラムのように人の生き方は 1 つではないんだよ。」そんな話をして終わりました。

「起立！ 1 年間ありがとうございました、礼！」

ここにだって、予定していない挨拶を自然とできる生徒たちが目の前にいました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします